

2019年度「休眠預金等活用法」に基づく資金分配団体公募

草の根活動支援事業 地域ブロック 採択事業

事業名 主題	孤立状態の人につながるをつくる	
事業名 副題	—	
地域ブロック	近畿ブロック【事業対象地域：近畿】	
団体名	公益財団法人 信頼資本財団	
代表者名	代表理事	熊野英介
解決すべき社会課題	1) 子ども及び若者の支援に係る活動; ①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援; ②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援 2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動; ④働くことが困難な人への支援;⑤ 社会的孤立や差別の解消に向けた支援	
事業の概要	障がいや疾病、精神的な状況、生活困窮などの課題を抱える個人は、他者からの支援を受けられないと、課題を解決するどころか、一層孤立を深める悪循環に陥る。実際に、貧困を原因として多重債務や精神的な問題を抱え、家族や周囲に相談できずに孤立し、より深刻な課題を抱えるケースを私たちは見てきた。 一方で、適切なサポートを受けて他者とつながることで課題を乗り越え、社会的自立、QOLの向上につながる事例も見てきた。 私たちは、課題の深刻さと孤独の度合いは相互に強化し合う関係にあると考える。悪循環を断ち切り、他者と支え合う関係性構築を築く活動を支援して、「誰もが社会とつながり将来に希望を持てる」社会づくりを目指したい。	
事業期間	2年	
助成額 (円)	助成金	100,000,000
	PO関連経費	20,000,000
	評価関連経費	9,250,000
	合計	129,250,000

審査コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・解決すべき課題が深掘りされている。 ・助成資金の有効活用、社会的インパクト創出に向けた設計が適切に検討されている。 ・事業計画に応じた資金提供をおこなうとする成果連動型を取り入れた助成の枠組みとしている点で新規性、持続性、波及性を評価できる。 ・事業モデルを形成し、その知を50個整理するなどの点は、休眠預金が求める「知の構造化」につながる取り組みと考えられる。 ・助成期間1年の設定であり、その期間で実際の成果創出に資する展開が可能なのか懸念される。 ・成果連動型に拘ることなく、孤立した個人に社会的繋がりができること自体を成果とすることも検討いただきたい。単純に数値に置き換ええない、人に寄り添ったものを期待したい。 ・実績ある組織がアライアンスを組んで実施していくことが期待される。
--------	---

※審査コメントは、審査時点（2019年9月末）に作成されたものです。

※事業情報は、審査コメントを受けた事業の見直しを反映した契約時点（2019年11月下旬）のものです。